

# 東京市電爭議に對する嚴正批判

市電當局は財教整理の無能を如實に暴露せり  
宜しく整理案を撤回すべし

大日本憂國青年同盟

會長 三 宮 維 信 述

今回の市電當局の整理案を見るに、徒らに犠牲のみ大にして、市電財政整理の根本問題に觸れて居らぬに不拘、之を最後案と稱し聲を大にして東京市民を欺瞞し、壹萬貳千の無産従業員の生活上に多大の犠牲を強要する如き案を強行し以て、自己の財政的無能を糊塗せんとするのみならず、東京市民に多大の迷惑を及ぼす如き斷じて許し難き事と云ふべきである。

元來、東京市電の財政的缺陷は經營的缺陷に非らずして資本的缺陷にあるのである。即ち市電正味資産貳億七千萬圓中の八割六分三厘、貳億參千參百萬圓は借金（市電公債）である。而かも右の正味資産中の壹億七千七百萬圓（六割五分七厘）は償却を要する資産なのである。然るに市電財政は上述の如く大部分が借入資本であるが故に、此償却資産を償却する事が出来ない。此場合に於て株式會社なら直ちに減資すべきであるが、市電財政に於ては許されないのである。茲に於て市電は壹億八千萬圓の償却資産を抱へて苦んで居るのである。市電の資本的缺陷とは之を云ふのである。

市電當局が此資本的缺陷を従業員の減給整理に依つて、其財源を求めんとする事は市電當局の財政的机上論に基くものであつて一を知つて二を知らざるの筆法と云ふべきである。然り、資本的缺陷は資本的整理に、經營的缺陷は經營的整理に求むべきは、企業經營の根本的原則である。然るに市電當局が此原則を無視して、資本的缺陷を經營的整理に求めんとする如きは、正に財政整理に對する無能を如實に暴露せるものと云ふべきである。

然らば市電財政の整理案如何と云ふに、市電の資本的缺陷を東京市に移管して、市電の資産整理を斷行すれば宜しいのである。東京市は之等の市關係事業の資本的缺陷を總合して、市財政的缺陷の總額を定めて後、東京市財政の根本的建直しを策すべきである。

市電財政の建直しは市電獨自にこの市當局の見解は餘りに認識不足に過ぐるものであつて、市電財政は當初より破綻すべく基礎付けられて居る事を知らねばならない。

今日の市電當局の考へ方を以てすれば、市電従業員は最後は無給奉仕を強制さるゝに至るべく、而かも市電財政の建直しの如き